

主要産地における平成27年産水稻の収穫量及び作柄概況等について 第1報（8月28日現在）

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部（平成27年8月31日）

全 国 道 府 県	収穫量(早期栽培等)			作況 (早期栽培等)		作柄 の良否 (27年8月15日 現在)	品質概況等		参考		
	予想収穫量 (27年8月15日 現在)①	前年産収穫量 (26年8月15日 現在)②	前年産 収穫量 との比較 (①-②)	作況指数 (27年8月15日 現在)	前年産 (26年8月15日 現在) との比較		27年産水稻 うるち玄米 1等米比率 (27年7月末)	26年産水稻 うるち玄米 1等米比率 (26年7月末)	生産数量目標		平成27年産 自主的取組 参考値
									平成27年産	前年産 との比較	
全 国	t	t	t				%	%	t	t	t
							67.0	77.0	7,510,000	▲ 140,000	7,390,000
北 海 道						平年並み			547,330	▲ 6,810	538,580
青 森						やや良			242,460	▲ 4,540	238,580
岩 手						やや良			271,210	▲ 4,330	266,880
宮 城						やや良			348,620	▲ 14,010	343,050
秋 田						やや良			417,540	▲ 15,500	410,860
山 形						やや良			344,500	▲ 14,070	338,990
福 島						やや良			339,550	▲ 8,870	334,130
茨 城						やや良			337,370	▲ 4,180	331,980
栃 木						平年並み			298,690	▲ 10,640	293,920
埼 玉									151,270	▲ 1,410	148,850
千 葉						平年並み			246,490	▲ 2,790	242,550
新 潟						やや良			521,290	▲ 14,350	512,960
富 山						やや良			185,650	▲ 6,690	182,680
石 川						やや良			123,630	▲ 2,770	121,650
福 井						やや良			125,460	▲ 2,670	123,460
長 野						平年並み			194,000	▲ 2,640	190,900
滋 賀						平年並み			160,450	▲ 2,930	157,880
兵 庫									180,440	▲ 1,490	177,560
岡 山									158,550	▲ 1,640	156,020
広 島									129,970	▲ 160	127,890
山 口									108,760	▲ 2,060	107,020
愛 媛									73,920	▲ 570	72,740
高 知	31,200	35,300	▲ 4,100	96	▲ 3		54.7	53.3	50,070	20	49,270
福 岡									182,470	▲ 1,910	179,550
熊 本							65.8	84.7	189,310	▲ 610	186,290
宮 崎	29,100	38,300	▲ 9,200	85	▲ 17		74.6	89.0	93,600	▲ 870	92,100
鹿 児 島	19,400	24,300	▲ 4,900	88	▲ 15		51.3	60.7	111,070	▲ 470	109,290

	品質概況等 自治体等公表資料（公表資料の抜粋）	備考 平成27年度米の作柄・品質等の向上に関する取組等（栽培技術指導方針） （農林水産省公表資料の抜粋）
北海道	<p>・9月のアカヒゲホソドリカシカミカの発生量はやや多いと予報。（北海道病害虫防除所 8月27日公表）</p> <p>（全道）生育は平年並（遅2日）。生育に地域間差が見られる。（北海道農政部 8月15日現在）  （空知）生育は概ね順調でほぼ平年並（出穂期8月2日、遅2日）。（空知総合振興局 8月15日現在）  （石狩）登熟はほぼ順調である（遅1日）。（石狩振興局 8月15日現在）  （後志）出穂の期間中高温で経過したことから、生育が早くなった（早2日）。出穂期は8月4日。  登熟は良。（後志総合振興局 8月15日現在）  （胆振）生育は平年並。8月上旬に出穂期となった（遅2）。（胆振総合振興局 8月15日現在）  （日高）生育は平年並みに推移している。（日高振興局 8月15日現在）  （渡島）生育は平年よりやや早く推移（出穂期8月3日、早4日）。（渡島総合振興局 8月15日現在）  （檜山）出穂・開花は良好である（遅1日）。（檜山振興局 8月15日現在）  （上川）生育は遅れているものの、概ね順調に推移している（遅5日）。（上川総合振興局 8月15日現在）  （留萌）生育は平年並（遅2日）。8月上旬以降の高温により順調に出穂・登熟している。出穂期は8月4日。  （留萌振興局 8月15日現在）  （オホーツク）生育は平年並（出穂期8月2日、遅2日）。（オホーツク総合振興局 8月15日現在）</p>	<p>○収量・品質の安定に向け、以下の指導が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・育苗管理の徹底</li> <li>・防風対策等の栽培環境整備</li> <li>・適正施肥</li> </ul>
青森	<p>・黒石「つがるロマン」の籾は、籾長、籾幅は平年並で、籾長×籾幅は平年比103%とやや大きかった。十和田「まっしぐら」の籾は、籾長は平年並だが、籾幅がやや大きく、籾長×籾幅は平年比103%とやや大きかった。（青森県産業技術センター農林総合研究所 8月17日付）</p> <p>・東北では、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。（農林水産省 8月18日公表）</p>	<p>○良食味・高品質米の安定生産（気象に左右されない米づくり）に向け、以下の指導が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適地・適品種の作付誘導</li> <li>・健全育成と適期移植</li> <li>・畦畔の整備、補強と適正な水管理</li> <li>・土づくりの推進と適正な施肥</li> </ul>
岩手	<p>・東北では、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。（農林水産省 8月18日公表）</p>	<p>○良質・良食味米の安定生産及び低温障害回避のため、適期移植の指導が行われている。</p> <p>○有機物による土作りや追肥の適正実施の指導が行われている。</p>
宮城	<p>・県の平均穂揃期は8月7日で平年より5日早い。</p> <p>・平坦部「ひとめぼれ」の刈り取り目安は9月6日頃。（宮城県 8月25日付）</p> <p>（大崎）・移植栽培の稈長、穂長は平年並又は短く、穂数が多いものの、1穂穂数が少なく、㎡当たり穂数はササニキ以外で平年並又は平年を下回った。  ・直播栽培の稈長、穂長は平年を下回り、㎡当たり穂数は目標茎数を確保し、平年を上回ったが、1穂当たり穂数が平年を下回り、㎡当たり穂数は平年を下回った。（大崎農業改良普及センター 8月25日付）</p> <p>・8月下旬調査の結果、斑点米カメムシ類のすくい取り頭数は過去10か年で最も多かった。発生地点率も50.8%と平年（37.5%）より高く、過去10か年で2番目に高かった。（宮城県病害虫防除所 8月28日付）</p> <p>・東北では、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。（農林水産省 8月18日公表）</p>	<p>○良質・良食味米の安定生産（気象変動に強い米づくり）に向け、以下の指導が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作型の改善（出穂期を遅らせる作型）</li> <li>・土づくりの推進と適正な施肥</li> <li>・適正な水管理と病害虫防除等</li> </ul>
秋田	<p>（鹿角）8月20日の定点調査結果では、1㎡当たりの着粒数は31,881粒（平年比98%）で概ね平年並になった。（8月21日付）</p> <p>（北秋田）8月20日の定点調査によると、㎡当たりの粒数はやや多くなっている（平年比102%）。登熟は順調に進んでいる。（8月21日付）</p> <p>（山本）8月20日現在の定点調査ほ場（管内9地点）の生育状況は、㎡あたりの全穂数は30,804粒（平年比93%）。（8月21日付）</p> <p>（秋田）水稲の登熟は順調に進んでいる。（8月28日付）</p> <p>8月20日現在の水稲定点調査によると、㎡あたり穂数は31,8千粒（平年比94%）。（8月20日付）</p> <p>（由利）出穂後30日間は登熟促進のため、間断かん水が行われている。斑点米カメムシ被害が懸念されるほ場では、2回目の防除が実施されている。（8月28日付）</p> <p>8月20日現在の水稲定点調査によると、㎡あたり穂数は33,115粒（平年比102%）と平年並。（8月20日付）</p> <p>（仙北）8月20日現在の「あきたこまち」の生育は、着粒数31,542粒/㎡（平年比97%）でやや少なかった。出穂直後に高温の日が続いたため、高温障害が懸念される。（8月28日付）</p> <p>（平賀）穂揃期の生育調査では、㎡当たり着粒数35,393粒（平年比109%）となっている。（8月21日付）</p> <p>（雄勝）8月20日の定点調査結果（あきたこまち8地点平均）では、㎡あたり穂数31,625粒（平年比100%）となっている。（8月21日付）</p> <p>（秋田県農林政策課）</p> <p>・9月の斑点米カメムシ類の発生量は全県でやや多いと予報。（秋田県病害虫防除所 8月27日付）</p> <p>・東北では、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。（農林水産省 8月18日公表）</p>	<p>○良質・良食味米の生産に向け、以下の指導が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土づくりの推進と栽植密度の適正化</li> <li>・適正な水管理と雑草防除の徹底</li> <li>・適正な施肥管理と適期刈取り等</li> </ul>
山形	<p>（酒田飽海）8月18日現在、穂揃期の「つや姫」の生育調査は、穂数および穂数が平年並～多い状況。（庄内総合支庁酒田農業技術普及課 8月26日付）</p> <p>8月10日現在、生育診断ほの穂揃期の「はえぬき」と「つや姫」の生育状況は、㎡当たり穂数がやや多い状況。葉色は平年並。（酒田農業技術普及課 8月21日付）</p> <p>・東北では、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。（農林水産省 8月18日公表）</p>	<p>○気象変動に対応した品質向上技術（水管理、適期移植）の指導</p> <p>○土壌診断に基づくリン酸、カリ等の適量施肥等の指導が行われている。</p>

	品質概況等	備考
福島	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東北では、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。（農林水産省 8月18日公表）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○土壌診断に基づくカリ施用、堆肥の施用による土づくり等の指導が行われている。</li> </ul>
茨城		<ul style="list-style-type: none"> <li>○良質米の安定生産に向け、以下の指導が行われている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・適期移植</li> <li>・適期・適切な中干しによる茎数管理</li> <li>・適期収穫と適正乾燥・調製</li> </ul> </li> </ul>
栃木		<ul style="list-style-type: none"> <li>○品質や食味の向上に向け、以下の指導が行われている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・水管理の徹底</li> <li>・生育診断に基づく適正な肥培管理</li> <li>・適期収穫</li> </ul> </li> </ul>
埼玉		<ul style="list-style-type: none"> <li>○品質・食味向上に向け、栽培管理技術の徹底及び栽培基準や栽培指針に準じた肥培管理の指導が行われている。</li> <li>○夏場の高温対策として、水管理の徹底、栄養診断に基づいた施肥の実施及び適期収穫の指導が行われている。</li> </ul>
千葉		<ul style="list-style-type: none"> <li>○土作りの推進と適正な施肥・水管理の徹底</li> <li>○適期収穫と適正な乾燥・調製の徹底等の指導が重点的に行われている。</li> </ul>
新潟	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コシヒカリの出穂期は、平年に比べ2日早い8月5日となった。稈長は指標値に比べ並、出穂期の葉色は並の状況で栄養状態は良好。こしいぶきの出穂期は、平年に比べ3日早い7月27日となった。（新潟県 8月21日付）</li> <li>（新潟） 早生、コシヒカリともに出穂期が平年より早く、登熟期前半に高温気象で推移したため、収穫時期も早まっている。特に、こしいぶきなどの早生は出穂後高温で推移したため、基部未熟粒や胴割粒が発生しやすくなっている。（8月24日付）</li> <li>（三条） 出穂期が平年より2日早まったことと、登熟期の高温で、平年より収穫適期が早まっている。出穂期以降高温が続き、登熟不良の心配がある。8月20日現在の収穫適期のめやすは、ゆきん子舞は8月25日、こしいぶきは8月29日、コシヒカリは9月10日。（8月21日付）</li> <li>（長岡） 登熟期間の高温により、早生からコシヒカリにかけて基部未熟粒・胴割粒の発生が懸念される。収穫適期が例年よりも2日程度早まる可能性がある。（8月24日付）</li> <li>（上越） 出穂後に気温の高い状態が続いたことから、基部未熟粒や胴割粒が発生しやすい状況になっている。（8月21日付）</li> <li>（佐渡） 8月19日現在の刈り取り予想（国仲地域 5月6日田植え）は、こしいぶきは9月4日、コシヒカリは9月16日。（佐渡農業普及指導センター 8月20日付）</li> <li>（糸魚川） 早生品種は登熟終盤、中生品種は登熟中盤を迎えている。（糸魚川地域振興局農林振興部 8月21日付）</li> <li>・北陸では、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。（農林水産省 8月18日公表）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○良質・良食味米生産推進のため、以下の指導が行われている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・土づくりによる気象変動に強い稲づくり</li> <li>・適正生育量の確保と過剰生育の防止</li> <li>・適正な穂肥、水管理</li> <li>・適期刈取りと適正な乾燥・調製</li> </ul> </li> </ul>
富山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東北では、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。（農林水産省 8月18日公表）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○土壌診断に基づく土作り</li> <li>○高温登熟を回避するため、以下の指導が行われている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「コシヒカリ」の適期移植の実施</li> <li>・適期・適切な中干しの徹底</li> <li>・肥料の適期・適量施肥</li> </ul> </li> </ul>
石川	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北陸では、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。（農林水産省 8月18日公表）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○良質・良食味生産に向け、以下の指導が行われている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・緩効性肥料の普及</li> <li>・過繁茂を回避するため基肥量の見直し</li> <li>・適正茎数の確保</li> </ul> </li> </ul>
福井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業試験場におけるハナエチゼンの籾水分は高めに推移。青籾残存率はほぼ平年並に推移。収穫期予想は、ハナエチゼン（5月2日播）は8月16日、コシヒカリ（5月20日播）は9月10日。（水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 8月19日付）</li> <li>・北陸では、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。（農林水産省 8月18日公表）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○土づくりと適切な水管理の徹底</li> <li>○高温登熟回避による品質向上を図るため、適期移植等の指導が行われている。</li> </ul>
長野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月24日現在、平坦地の早生種（あきたこまち）は登熟後期で、コシヒカリは登熟初期～中期。生育は平年より7日程度進んでいる。刈り取り始め適期は平年より早く、昨年より4～7日程度早くなる事が予想される。（松本農業改良普及センター 平成27年度 作物技術普及情報14号）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食味向上に向けた適量施肥</li> <li>○高温登熟障害（胴割米、白未熟米）防止のため適切な水管理</li> <li>○コスト削減のための疎植栽培等の指導が行われている。</li> </ul>

	品質概況等	備考
滋賀	<p>(8月18日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「コシヒカリ」の草丈は平年並で、莖数は平年より1割以上多く、葉色は平年よりやや濃かった。出穂期は7月29日で平年と同日であったが、昨年より2日遅かった。8月上旬の気温が平年よりかなり高かったことから、成熟期は平年より1~2日早まる見込み。(7月30日最終生育調査)</li> <li>・「秋の詩」の草丈は平年並で、莖数は平年より約2割多く、葉色は平年より濃かった。出穂期は8月10日で平年より3日早く、昨年より2日早かった。(8月10日最終生育調査)</li> <li>・「みずかがみ」の成熟期は、5月上旬移植の場合8月24日頃になると予測。(8月17日現在)(滋賀県農業技術振興センター 8月21日付)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○良質米生産に向け、以下の指導が行われている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・初期の過繁茂抑制</li> <li>・もみ数過多の抑制</li> <li>・登熟期の高温回避・栄養確保</li> </ul> </li> </ul>
兵庫		<ul style="list-style-type: none"> <li>○良質米生産に向け、品種別に以下の指導が行われている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・適期移植</li> <li>・適期・適量施肥</li> </ul> </li> </ul>
岡山		<ul style="list-style-type: none"> <li>○生育状況に応じた水管理</li> <li>○高温下での登熟回避のための適期移植</li> <li>○地域や品種に適合した肥料選定等の指導が行われている。</li> </ul>
広島		<ul style="list-style-type: none"> <li>○肥培管理、水管理等基本管理技術の高位平準化により外観品質向上を目指している。</li> <li>○需要動向を踏まえた売れる米作りに対応し、実需者ニーズに対応する品種の作付けによる産地の育成を図っている。</li> </ul>
山口	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月移植のコシヒカリ・ひとめぼれでは、糊熟期~黄熟期に差しかかってきた。5月下旬移植のきぬむすめでは出穂期となり、6月移植のヒノヒカリでも、出穂期が近づいてきた。(長門農林事務所農業部、JA長門大津、8月21日付)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○品種特性に応じた栽植密度の確保</li> <li>○中干し等水管理の徹底</li> <li>○気象条件にあった施肥管理等の指導が行われている</li> </ul>
愛媛		<ul style="list-style-type: none"> <li>○品質向上に向け、以下の指導が行われている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・疎植栽培</li> <li>・移植時期の後進化</li> <li>・適正な水管理</li> </ul> </li> </ul>
高知		<ul style="list-style-type: none"> <li>○品質向上に向け、以下の指導が行われている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・適正な肥培管理</li> <li>・適期防除</li> <li>・収穫前の水管理の徹底(早期栽培)、移植時期の後進化(普通期栽培)</li> </ul> </li> </ul>
福岡	<p>&lt;早期水稲(コシヒカリ、夢つくし)&gt; 4月中下旬植えの「コシヒカリ」「夢つくし」の収穫は8月10日頃から開始している。梅雨明け後の高温・多日照の影響で、収穫は平年より1~2日早く、8月17~23日が最盛期。倒伏や病害虫の被害は少ないものの、穂数がやや少なく、収量は平年並~やや少ない傾向。</p> <p>&lt;普通期水稲&gt; 梅雨明け後の高温・多日照により、軟弱徒長の生育が回復している。出穂期は、6月上旬「夢つくし」で、8月4~10日、6月中旬「元気つくし」が8月17日頃で、平年並~2日程度早くなっている。「夢つくし」の収穫は、平年並の9月中旬が最盛期となる見込み。(福岡県農林業総合試験場 8月20日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○品質向上に向け、以下の指導が行われている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・適期移植</li> <li>・中干し・間断灌水・落水時期の適正化</li> <li>・土壌診断・施肥基準に基づく適正な施肥</li> </ul> </li> </ul>
熊本		<ul style="list-style-type: none"> <li>○品質向上に向け、以下の指導が行われている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・適期移植</li> <li>・高温時の間断灌水</li> <li>・カメムシの防除</li> <li>・土壌改良資材の投入</li> </ul> </li> </ul>

	品質概況等	備考
宮 崎		<ul style="list-style-type: none"> <li>○適正な栽植密度の確保</li> <li>○移植時期の後進化</li> <li>○土壌診断に基づく適正施肥等の指導が行われている。</li> </ul>
鹿 児 島		<ul style="list-style-type: none"> <li>○高品質米の生産に向け、以下の指導が行われている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・適正な栽植密度の確保、適期移植</li> <li>・適正な施肥、水管理</li> </ul> </li> </ul>

注：自治体等公表資料については地方自治体及び出先機関等が公表している資料から抜粋、日付は公表日。

## 参考資料

平成27年産水稻の8月15日現在における作柄概況(農林水産省)、  
平成26年産水稻の8月15日現在における作柄概況(農林水産省)、  
平成26年産水陸稲の収穫量(農林水産省)、  
平成27年産米の農産物検査結果(速報値/平成27年7月31日現在)(農林水産省)、  
平成26年産米の農産物検査結果(速報値/平成26年7月31日現在)(農林水産省)、  
平成27年産米の都道府県別の生産数量目標等(農林水産省)、  
平成26年産米の都道府県別の生産数量目標(農林水産省)、  
都道府県別の平成27年産水稻の生産事情(農林水産省)、  
「平成27年度病害虫発生予報第6号」の発表について(農林水産省)、

農作物の生育状況 8月15日現在(北海道 8月18日)、農作物生育状況 8月15日現在(北海道空知総合振興局 8月18日)、  
農作物の生育状況 8月15日現在(北海道石狩振興局 8月18日)、農作物の生育状況 8月15日現在(北海道後志総合振興局 8月18日)、  
農作物の生育状況 8月15日現在(北海道胆振総合振興局 8月18日)、農作物の生育状況 8月15日現在(北海道日高振興局 8月18日)、  
農作物の生育状況 8月15日現在(北海道渡島総合振興局 8月18日)、農作物の生育状況 8月15日現在(北海道檜山振興局 8月18日)、  
農作物の生育状況 8月15日現在(北海道上川総合振興局 8月18日)、農作物生育状況調査の概要 8月15日現在(北海道留萌振興局 8月18日)、  
農作物の生育と農作業の進捗状況 8月15日現在(北海道オホーツク総合振興局 8月18日)、  
平成27年度病害虫発生予察情報第13号9月月報(北海道病害虫防除所 8月27日)、  
作況調査報告(稲穀調査)(青森県産業技術センター農林総合研究所 8月17日)、  
宮城県稲作情報第5号(宮城県農林水産部 8月25日)、平成27年産産稲作技術情報第10号(宮城県大崎農業改良普及センター 8月25日)、  
平成27年度水稻病害虫発生概況(8月)(宮城県病害虫防除所 8月28日)、  
生育状況の情報(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」<http://www.e-komachi.jp/> 8月28日)、  
平成27年度農作物病害虫発生予察情報発生予報第5号(9月予報)(秋田県病害虫防除所 8月27日)、  
酒田飽海つや姫情報第7号(庄内総合支庁酒田農業技術普及課 8月26日)、  
酒田飽海日本一米づくり情報第10報(庄内総合支庁酒田農業技術普及課 8月21日)、  
水稻の生育状況と今後の管理対策(第9号)(新潟県農林水産部 8月21日)、新潟稲作速報No.9(新潟農業普及指導センター 8月24日)、  
FAX稲作速報(三条農業普及指導センター 8月21日)、水稻情報No.(長岡農業普及指導センター 8月24日)、  
平成27年産「上越地域米」栽培技術情報No.9(上越農業普及指導センター 8月21日)、  
平成27年度 稲作生育速報No.8(佐渡農業普及指導センター 8月20日)、  
平成27年度糸魚川売れる米づくり水稻生育情報No.8(糸魚川農業普及指導センター 8月21日)、  
稲作情報No.16(福井県水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 8月19日)、  
平成27年度作物技術普及情報第14号(長野県松本農業改良普及センター)、  
平成27年度水稻生育診断情報No.5(滋賀県農業技術振興センター 8月21日)、  
稲作ワンポイントアドバイス(No9)(長門農林事務所 8月21日)、  
福岡県の主な農産物の生産状況(福岡県農林業総合試験場 8月20日)、